

うみのこ

平成 23 年(2011年)9月発行
滋賀県立びわ湖フローティングスクール
大津市浜大津五丁目1-7
(Tel) 077-524-8225

風に負けない心身を！



所長 江川 久雄

前回は雨の話をしたので今回は風の話をしたと思います。フローティングスクールにとって風は大きな問題になります。

台風のように強い風が吹くと航海自体が中止になることもあり、今年度も第13回航海が台風の接近によって延期になりました。

風が吹くと湖面に波が出てきたり、もっと強くなると白波が立ってきたりします。このような状態になると「うみのこ」も風波によって揺れてきます。船にとっては揺れることは仕方ないのですが、揺れに耐えない児童にとってはこれが試練になるときもあります。

しかし、幸いなことに「うみのこ」は構造上揺れをなるべく少なくするような船体構造がとられています。4階の見学室(操舵室の横)には「うみのこ」の出来上がるまでの写真が展示してあり、それを見ていただくと「うみのこ」の船底は洗面器のような形をしていることがわかります。

この構造は「うみのこ」が湖面の波を切って前に力強く進んでいく船というのではなく、風が吹けば風とともに一緒に流されながら揺れないように進んでいく船の構造をしているのです。これは建造当初から小学校児童が乗船するというコンセプトから「揺れ」の少ない船を目指して考え出されたために、このような構造になりました。

そのため、乗船した児童や先生方が「案外、この船は揺れないのですね」という言葉を私達にかけていただきます。

しかし、風とともに流されるということは「うみのこ」を操船してくださる船長にとっては、この船は操船が大変難しいという船であることを意味します。特に長命寺港などは、大変難しい港です。

もう一つ、風に影響される活動としてカッター活動があります。児童が力を合わせてオールを漕いで進むカッター活動も強い風が吹いてしまうと簡単に流されてしまうと

きがあります。中にはなかなか岸に帰れなかったり、ずーと遠くの場所まで流されて行ってしまうこともあります。

琵琶湖周辺では、ごく普通の晴天時には午後から風が吹き出してきます。カッター活動が午前中に実施するのこのような理由があるからです。

また、その日の状況によってカッター活動を前倒ししたり短縮にしたりするのは、昼前に風が吹いてくることを予想して早めに実施してしまおうとするからです。

児童の力を協力すれば少々の風でも、カッターは進んでいきます。みんなで声を掛け合いながら協力して、風に負けないカッター活動を体験してほしいと思います。

このように風を負けないことを体感することもフローティングスクールの重要な体験であると考えています。これからの9月以降や冬の航海では季節風が強くなり、益々、風が強くなることが予想されます。児童にはこのような厳しい自然にも負けない強い心身を育ててほしいと願っています。

最後に、風が吹くと琵琶湖の表面の水は風に流され移動します。そうすると風下の水位が上昇することになります。

琵琶湖の水位が何cmということが県庁の前庭や新聞などにも表示されます。風下だけのように1カ所だけを測定しては不正確になります。

平成4年までは、琵琶湖の水位は瀬田の唐橋にある鳥居川水位観測所の水位で代表されてきましたが瀬田川の洗堰の影響を受けることや風のため今日では琵琶湖の水位は琵琶湖の5カ所の地点での水位を平均して測定されています。

その5地点は

- 三保が崎 (大津市：唐崎付近)、
- 堅田 (大津市)、大溝 (高島市)
- 片山 (長浜市)、彦根 (彦根市) です。